

MCCIR

Vol. 18 | 2013年3月期上半期のご報告
2012年4月1日～2012年9月30日

2013年3月期上半期のご報告

2012年4月1日～2012年9月30日

For a society of
more heartfelt communication
MegaChips

株式会社メガチップス

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪阪急ビル
TEL.06-6399-2884(代表) / FAX.06-6399-2886

<http://www.megachips.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォ
ントを採用しています。



ミックス
責任ある水資源を
使用した紙
FSC® C022915



この報告書は植物油イン
キを使用して印刷してい
ます。



P2 **社長が語る今後の戦略**

トータルソリューションの 提供を強化し、グローバル市場での 成長を目指します。

P1 **MCC in 2013 上半期の概況**
2013年3月期上半期までの連結業績と主なニュース

P7 **企業情報** P8 **株主様ラウンジ**

当社IR情報の入手にはIRサイトをご活用ください。

メガチップス IR 検索

<http://www.megachips.co.jp/irinfo/>

株式会社メガチップス

証券コード:6875

1 0 2 - 8 7 9 0

2 2 0

東京都千代田区一番町17-6
一番町M&Sビル3F

株式会社メガチップス
広報グループ発行



株主様アンケート

お手数ですが、ハガキにご回答の上、ポストへご投函くださいようお願いいたします。

株主様のプロフィールをご記入ください。

- 性別：男性 女性
- 年齢：10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代～
- 職業：会社員 自営業 公務員 主婦 その他()
- 当社株式保有数：
単元未満(100株未満) 100-199株 200-299株
300-399株 400-499株 500-999株 1,000株以上
- 当社株式保有期間：
1年未満 1年以上3年未満 3年以上5年未満
5年以上10年未満 10年以上
- 居住地：
北海道 東北 関東 中部 近畿 中国 四国
九州・沖縄

※ご記入いただいた情報は、アンケート集計以外の目的には使用しません。
※2013年2月28日までに投函ください。

ハガキをご投函の際は、点線にそって切り離してください。

料金受取人払郵便

郵便支店承認

3593

差出有効期間
平成25年3月
31日まで
(切手不要)



MCC in 2013 上半期の概況

2013年3月期上半期までの
連結業績と主なニュース

さらに詳しい情報は、IRサイトをご覧ください。

メガチップス IR 検索

<http://www.megachips.co.jp/irinfo/>

連結業績ハイライト

売上高 **247億円** 前年同期比 85.5%増

営業利益 **23億円** 前年同期比 127.3%増

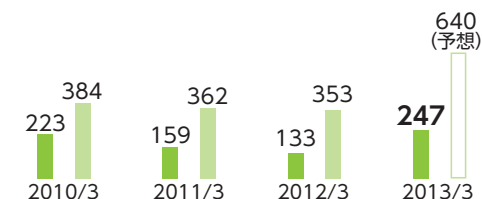
四半期純利益 **27億円** 前年同期比 264.1%増

主力のゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムメモリー)の需要が堅調に推移。

液晶パネル向けLSIなどを販売する川崎マイクロエレクトロニクス株式会社の第2四半期の業績を合算。

四半期純利益増益は、主に川崎マイクロエレクトロニクス株式会社の子会社化に伴う、負ののれん発生益の計上によるもの。

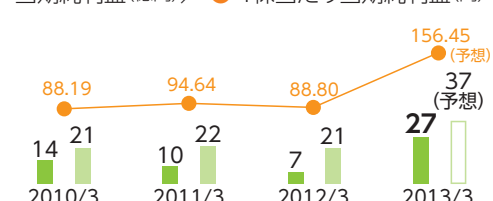
売上高(億円) ■ 上半期 ■ 通期



営業利益(億円) / ● 売上高営業利益率(%)



当期純利益(億円) / ● 1株当たり当期純利益(円)



主なニュース

4月 4月20日
川崎マイクロエレクトロニクス株式会社の子会社化を発表

5月 5月9日
2012年度経営計画を発表

6月 6月26日
第22期定時株主総会
8ページもあわせてご覧ください。

7月 7月27日
川崎マイクロエレクトロニクス株式会社との経営統合を決議

8月 8月20日
新本社移転

9月 9月13日
自己株式の取得終了
(305,400株を取得)



2012年6月26日(火曜日) ラマダホテル大阪「大淀の間」にて、午前10時から約1時間にわたり開催され、188名の株主様にご出席いただきました。

2012年8月20日、大阪本社はJR新大阪駅に直結する新大阪阪急ビルへと移転しました。メガチップスの新しい時代を切り拓くべく、社員一丸となって邁進してまいります。



新大阪阪急ビル

社長が語る今後の戦略

トータルソリューションの提供を強化し、グローバル市場での成長を目指します。

株式会社メガチップス 代表取締役社長 **高田 明**

この2013年3月期は、当社にとって将来への大きなターニングポイントとなる1年です。ここでは、川崎マイクロエレクトロニクスの子会社化と経営統合に向けた動き、そして今後の戦略をご説明します。

ゲーム機向けLSIが堅調に推移。
株式取得・連結化により、
対前年度大幅増収増益

この2013年3月期上半期の電子機器業界は、一部の産業用電子機器が前年同期比増となったものの、半導体などの電子部品や民生用電子機器の需要が減少し、市場全体としては、前年同期比減という状況で推移しました。

こうした状況の中、当社は7月1日付で、JFEホールディングス株式会社から川崎マイクロエレクトロニクス株式会社(以下、「川崎マイクロ」)の発行済株式の全部を取得し、当第2四半期連結会計期間から同じグループとして事業活動を開始しました。

まず、当社においては、ゲーム、デジタルカメ

ラ、産業機器、エコエネルギー、セキュリティ・モニタリングなどの各分野に、応用特化型メモリー、システムLSI、自社システムLSIを搭載した電子部品およびシステム機器など、多様な製品の開発と販売を進めています。

一方、第2四半期連結会計期間より連結子会社となった川崎マイクロにおいては、液晶パネル、事務機器、光通信機器、ホームネットワーク機器分野の顧客専用LSIを中心とした製品の開発と販売を進めています。

これらの取り組みにより、上半期の成果として、主力製品であるゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムメモリー)の需要が堅調に推移したことに加えて、川崎マイクロの業績を合算したことにより、**売上高は247億1千8百万円(前年同四半期比85.5%増)、営業利益は23億7千1百万円**

トータルソリューションの提供を強化し、グローバル市場での成長を目指します。

(同127.3%増)、経常利益は23億3千8百万円(同122.2%増)、四半期純利益は27億7千4百万円(同264.1%増)と大幅な増収増益になりました。なお、四半期純利益の増加は、主に川崎マイクロの子会社化に伴う負のれん発生益を14億6百万円計上したことによるものです。

100年後に生き残れる企業として、経営基盤の強化・拡大を図るため、来年4月に川崎マイクロの吸収合併・経営統合を実施

完全子会社化した川崎マイクロについては、今後経営統合に向けて、2013年4月1日付で当社への吸収合併を実施する予定です。

この経営統合の目的は、**当社と川崎マイクロが単一のビジョンのもとで、新生メガチップスとして共通の使命・目標を設定し、経営資源を適切**

く最大限有効に活用していくことにあります。一体化した両社は、**新たな事業分野の拡大、製品開発力の強化とコストダウンによる経営の効率化を推進し、さらなる企業価値の向上を実現**していきます。

総勢約700名のメガチップスグループとして目指していく姿は、開発の上流から下流まで、さらに製造・組立、検査までの一貫対応をお客様を強力にサポートする、トータルソリューションの提供が可能な**ファブレスメーカー**です。7月の子会社化以降、両社はすでに緊密な協業体制の構築に取り組み、シナジーの追求に向けて動き出しています。活発な部門間交流の中で、特に商品開発については、両社による新たな開発チームを複数立ち上げています。

当社グループが展開するLSIビジネスでは、既

存ビジネスとしてゲーム、デジタルカメラ、事務機器、液晶パネル、ホームネットワークの各機器に向けたLSI製品があります。その中で事務機器向けのLSIについては、顧客ベースにおいて川崎マイクロが強みを持つ分野であり、当社の技術を合わせることでシナジーを発揮できる分野です。また、ホームネットワーク分野については、さらなる発展が見込める分野としてシナジーの発揮による一体展開を図っています。ほかにも、液晶パネル向けに使われる川崎マイクロの**T-Con**技術と当社の画像処理技術を活かした製品など、さらにシナジー領域を拡げていく考えです。

当社は昨年の、世界のファブレスIC企業ランキングにおいて、売上高ランキングの第23位に位置しています。今回の経営統合により、**トップ10入りを目指し存在感を高めるとともに、100年後**



に生き残れる企業となるよう、さらなる企業価値の向上に努めます。

成長戦略に基づく4つの取り組みを推進し、中期経営計画最終年度には売上高810億円・営業利益68億円を目指す

当期から2015年3月期を最終年度とする3か年中期経営計画では、「**ワールドワイドにソリューションを提供する企業**」として認知されるための方向性を明確化し、**4つの成長戦略を打ち出しています**。ここでは、各戦略の取り組みについて具体的にご説明します。

? Key Word 用語解説

ファブレスメーカー
ファブレス(Fables)とは工場を持たないビジネスモデルを指す。商品企画、開発設計、営業活動に特化し、製造を外部に委託するメーカーのこと。

T-Con
T-Con(Timing Controller)とは、画像信号の表示タイミングをとることで、液晶テレビ、モニタなどの液晶パネルに画像表示させるロジック回路。

K-micro
川崎マイクロエレクトロニクス(株)ってどんな会社?

川崎マイクロエレクトロニクスはASIC (特定顧客向けLSI) をコア事業として展開しているファブレスメーカーです。

▶ 強みと主な製品

液晶パネル・事務機器・光通信・ホームネットワーク向けLSIを国内外の有力顧客に向けて、設計から製造、品質保証まで一貫して行っているファブレス(工場を持たない)メーカーです。

液晶パネル向けLSI
テレビ向けで世界市場の約25%を提供



▶ グローバルな活動拠点

米国子会社を将来に向けたコア技術開発のR&Dセンター、インド支店を開発センター、台湾支店を量産オペレーションと台湾・中国顧客対応の拠点として展開しています。中国顧客への対応強化のため、8月に中国の現地法人を開設しました。

経営統合までの経緯

- 2012年7月1日 メガチップスによる子会社化
- 2012年7月27日 メガチップスとの経営統合発表
- 2013年4月1日 メガチップスとの経営統合(予定)



▶ K-microのプロフィール

所在地：千葉市美浜区中瀬一丁目3番地

設立：2001年7月2日

支店：台湾支店、インド支店

子会社：Kawasaki Microelectronics America, Inc.

：Kawasaki Microelectronics (Shenzhen), Inc.

資本金：5,046百万円

従業員数：428名(2012年9月30日現在)

連結売上高の推移

2010年3月期	246億円
2011年3月期	241億円
2012年3月期	214億円

トータルソリューションの提供を強化し、グローバル市場での成長を目指します。

1点目は、既存の「コンシューマ分野における顧客密着型ビジネス」の基盤強化に加え、新たな分野であるエコエネルギー分野、産業機器分野のビジネスを育成し、特定の分野に偏らない適正な事業ポートフォリオを構築することです。これらの新たに展開するビジネスでは、お客様が高付加価値の新製品・新サービスを創造するための、当社の技術による競争力の高いソリューションを提供することで、お客様のビジネスにも貢献していく考えです。このように、新規分野を積極的に拡大することにより中長期的な成長を実現し、あわせて事業ポートフォリオの適正化を図ります。

2点目は、5年後の競争力となるコア技術の獲得です。企業の成長を維持し、ビジネスを拡大していくには、競争を圧倒的に凌ぐ強力なコア技術が必要となります。今後は、中長期的な視点からコア技術の開発に人材を投入し、同時に、コア技術を製品戦略に展開する構想力・開発力の向上を図ります。

3点目は、お客様に一貫したサポートを提供するためのトータルソリューション能力の強化です。近年、エレクトロニクス分野の技術革新が急速に進む中、お客様の課題や市場の要求が多様化するとともに、開発から製造・品質保証に至る幅広い対応能力が求められています。当社グループは、アルゴリズムやアーキテクチャ段階の開発から、ウエハ製造、組立、テスト工程まで一貫してサ

ポートできるトータルソリューション能力を確立し、これに対応していきます。

4点目は、グローバルマーケット進出のための体制構築です。厳しい経営環境の中で成長を持続していくためには、海外を舞台とした事業拡大が不可欠です。当社グループは、川崎マイクロの米国子会社・中国子会社と台湾支店・インド支店を中心とする海外ネットワークを活かし、営業展開および開発リソース、生産調達のグローバル化を進めていきます。

これらの成長戦略を通じて、**2015年3月期に「連結売上高810億円」「連結営業利益68億円(売上高営業利益率8.4%)」の達成を目指します。**

なお、計画3カ年における統合・新規開発投資として、約18億円の費用を予定しています。

通期業績は、新製品売上と川崎マイクロ子会社化が寄与し、大幅増収増益の見込み

通期の連結業績は、新世代ゲーム機器およびデジタルカメラ向けLSIの新製品が売上寄与すること、川崎マイクロの連結効果により、売上高640億円(前期比81.0%増)、営業利益40億円(同31.8%増)、経常利益39億円(同19.5%増)、当期純利益37億円(同73.9%増)を見込んでいます。

また、期末配当については、具体的な金額を未定としていますが、配当性向30%程度(ただし、決算上の特殊要因を除きます)、または連結純資産配当率2%程度のいずれか高い方を基本として、連結業績、財政状況、投資計画等を考慮し、実施します。

株主の皆様から寄せられる成長性への期待と、エコエネルギー分野へのご評価に応え、今後とも広く社会に貢献

本MCCIRの「株主様アンケートハガキ」を通じてお寄せいただく皆様からのご意見には、当社の成長性への期待の声が多く見られ、心強いご支援に深く感謝します。

また、本アンケートの中で、特に高いご関心とともに評価や賛同の声をいただいているのが、エ

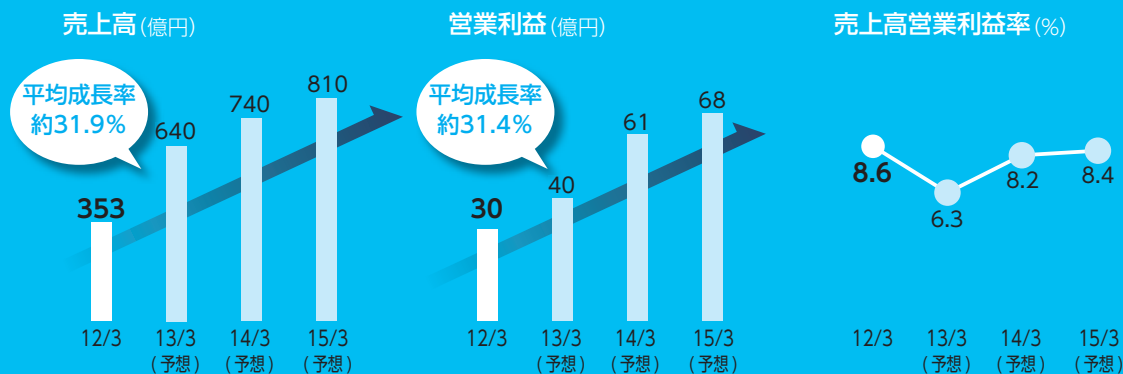
中期経営計画(2013年3月期～2015年3月期)

新しい価値の創造と高い技術力により、人々が幸せを実感できる豊かな未来社会作りに貢献します。

2013年3月期中期成長戦略
ワールドワイドにソリューションを提供する企業として認知を得る。

- 1 既存のコンシューマ分野の「顧客密着型ビジネス」に加え、エコエネルギー分野、産業機器分野を育成し、適正な事業ポートフォリオを実現する。
- 2 5年後の競争力となる「コア技術」を獲得する。
- 3 開発から、ウエハ製造、組立、テスト工程まで一貫してサポートができるトータルソリューション能力を強化する。
- 4 グローバルマーケット進出のための体制を構築する。

数値目標



※2013年3月期第2四半期から、川崎マイクロエレクトロニクス株式会社の業績が合算されています。

? Key Word 用語解説

コンシューマ分野
当社における家庭用ゲーム機、デジタルカメラなど、一般消費者向け分野。

アルゴリズム
特定の目的を達成するためのデータ処理手順、あるいは手続きや処理方法。

アーキテクチャ
アルゴリズムを実現するためのハードウェア・ソフトウェアの構成を含めた設計思想。

ウエハ
高純度シリコンの単結晶を薄くスライスしたものの。ICの材料基板となる。

コエネルギー分野の取り組みです。当社は、前期に製品化した電力自動測定システムや通信用LSI「BlueChip(ブルーチップ)」など、社会の省エネルギー化に寄与するソリューションの提供を今後とも推進し、広く世の中に貢献したいと考えています。

株主の皆様におかれましては、これからも当社事業への変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。





企業情報

(2012年9月30日現在)

会社概要

会社商号 株式会社メガチップス
英文商号 MegaChips Corporation
設立 1990年4月4日
上場 東証1部(証券コード6875)
資本金 4,840百万円
従業員数 708名(連結)
事業内容 システムLSI、自社システムLSIを使った電子部品およびシステム製品の設計・開発・製造(外部委託)・販売

事業所
(本社) 〒532-0003
 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号
 新大阪阪急ビル
 TEL. 06-6399-2884(代表)
(東京営業所) 〒102-0082
 東京都千代田区一番町17番地6
 一番町MSビル
 TEL. 03-3512-5080
主なグループ会社
(本社) 川崎マイクロエレクトロニクス株式会社
 〒261-8501
 千葉市美浜区中瀬1丁目3番地
(海外拠点) 台湾、インド、アメリカ、中国

役員



代表取締役社長
高田 明



取締役副社長
林 能昌



取締役副社長
松岡 茂樹



専務取締役
藤井 理之



専務取締役
山内 由紀夫



取締役
古都 哲生



取締役
肥川 哲士



取締役
佐々木 元



取締役
水野 博之
(社外取締役)



取締役
山田 園裕
(社外取締役)



常勤監査役
角 正



監査役
中西 藤和
(社外監査役)



監査役
小原 望
(社外監査役)



監査役
北野 敬一
(社外監査役)

※ 取締役 水野 博之氏および山田 園裕氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
 ※ 監査役 中西 藤和氏、小原 望氏および北野 敬一氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。



株主様ラウンジ

株主の皆様へさまざまな情報をお伝えさせていただきます。

第22期定時株主総会のご報告

2012年6月26日(火曜日)、当社第22期定時株主総会がラマダホテル大阪「大淀の間」で開催され、188名の株主様にご出席いただきました。事業報告、監査報告などを行い、議案4件[定款一部変更の件]、[取締役10名選任の件]、[監査役1名選任の件]、[取締役の報酬額改定の件]のいずれも承認・可決されました。総会后、別会場にて「当社開発LSI」、「新ネットワーク通信技術」や「次世代映像監視システム」などの製品展示会を開催し、多くの株主様とのコミュニケーションを深めることができました。株主の皆様におかれましては、議決権の行使にご協力いただきまして誠にありがとうございました。



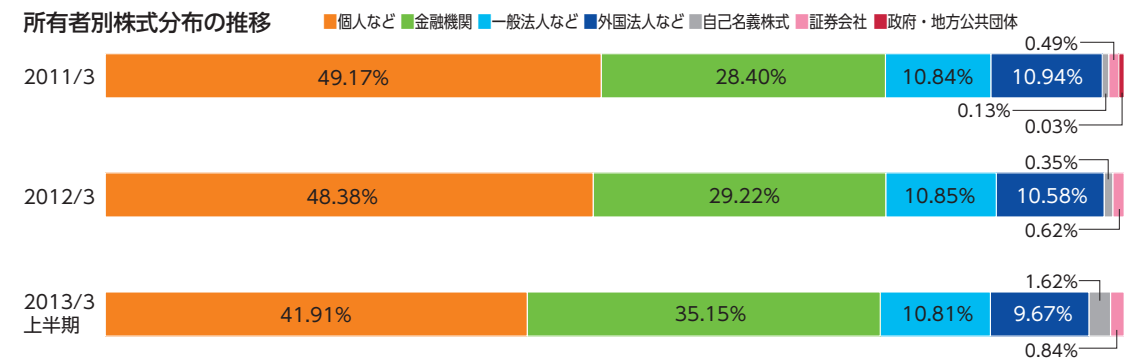
製品展示会場



株主総会

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株 発行済株式総数 24,038,400株



株主メモ

決算日 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
基準日 毎年3月31日
配当基準日 毎年3月31日

この他、取締役会の決議により、予め公告して基準日を定めることができます。
1単元の株式数 100株
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 〒541-8502
同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 電話：0120-094-777(通話料無料)
 受付時間：土・日・祝祭日等を除く
 平日9:00～17:00

公告の方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL
<http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6875/6875.html>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)

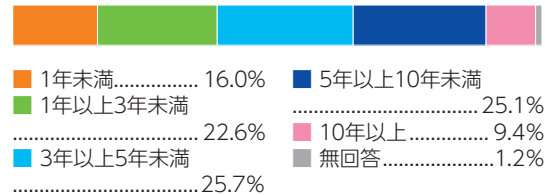
(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっています。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

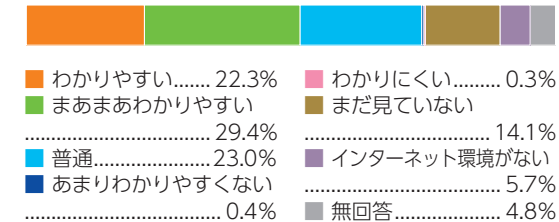
株主様へのアンケート結果のご報告

[MCCIR Vol.17]誌上のアンケートにおいて、1,690名の株主の皆様からご回答をいただきました。皆様からの**貴重なご意見**は、今後の経営およびIR活動に活かしてまいります。

Q 当社株式の保有期間は？



Q 当社ホームページのIR情報はいかがでしたか？



2012年度 株主優待について



*1 「マリオカート7」
©2011 Nintendo
*2 「スーパーマリオ 3Dランド」
©2011 Nintendo



株式会社高島屋
カタログ

※次回の株主様への株主優待カタログ発送は2013年6月上旬を予定しています。ニンテンドー3DS・ニンテンドーDSは任天堂の登録商標または商標です。

ご注意 ▶ 株主優待は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載された、100株(1単元)以上のご所有の株主様を対象に行っています。株主名簿は株主様からお届けいただいた情報を基に作成していますので、ご転勤などでご住所を変更される場合は、証券会社等口座開設先に必ず住所変更届をご提出ください。(株主優待に関する当社からのご案内書がお届けできない場合がございます。)

なお、株主優待品につきましては、申込受付期日を過ぎますとお受けできなくなりますので、ご注意ください。

メガチップスでは、株主の皆様の日頃の温かいご支援に対して感謝の意を表するため、株主優待制度を設けています。

本年も3月31日現在で当社株式を100株(1単元)以上ご所有いただいております株主の皆様へ心ばかりの品を贈呈させていただきました。本年度は、株式会社高島屋の提供する商品カタログの中から、株主の皆様が希望される商品1点(3,000円相当)、または任天堂株式会社製ニンテンドーDS[®]用ソフト、ニンテンドー3DS[™]専用ソフトの中から1点をご優待品としてお届けしました。

2012年度株主優待結果

株主優待対象株主数	26,542名
株主優待行使株主数	26,435名
【ご参考】カタログ商品	22,246名
ゲームソフト	4,189名
株主優待未行使株主数	107名

人気優待品ベスト5

本年度の株主優待品の人気ベスト5をご紹介します。

順位	優待品(申込商品)
1	マリオカート7*
2	スーパーマリオ 3Dランド*
3	新・光神話 パルテナの鏡*
4	ファイアーエムブレム 覚醒*
5	マリオ&ソニック AT ロンドンオリンピック [™] *

*ニンテンドー3DS[™]専用ソフト

2013年度 株主優待の内容に関する決定について

2013年度の株主優待に関する内容は、2013年4月頃に決定する予定です。決定後、当社ホームページにその決定内容を掲載しますのでご承知おきください。

株主様から寄せられたご質問に担当役員がお答えします。

Q 川崎マイクロエレクトロニクス(株)がメガチップスグループになった理由は？

メガチップスと川崎マイクロエレクトロニクス両社は、日本有数のファブレスメーカーではありますが、それぞれ得意分野が違います。このたびのグループ化は、両社の得意分野が相互補完的な関係にあるため、相乗効果が発揮できるものと考え、合意しました。現在、両社の持つ強みを最大限に発揮し、世界に打って出る日本企業となるよう、具体的な事業戦略、体制について検討を進めています。



専務取締役
山内 由紀夫
(川崎マイクロエレクトロニクス(株)
代表取締役社長)

Q 株式価値向上ってどのようなことをされているのですか？

当社は、9月に自己株式305,400株を取得しました。自己株式取得とは株式市場から当社の株式を現金で買い戻すことですが、市場に出回る株式総数が減少することにより、1株当たりの利益(当期純利益を市場に出回っている株数で割った値)を高めることができます。「1株当たり利益の増加」という形で、利益の一部を株主に還元する意味があり、当社では現金配当と同様に株主還元策のひとつとして重視しています。(1株当たりの利益の数値は、1ページもあわせてご覧ください。)



専務取締役
藤井 理之

今後のIR活動スケジュール

※日程は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- 2013年
- 2月 2013年3月期 第3四半期決算発表
 - 5月 2013年3月期 通期決算発表
 - 6月 第23期 定時株主総会 開催
2013年3月期 MCCIR Vol.19発行

編・集・後・記

今回のMCCIRは、分かりにくい用語に解説をつけ、またIR情報ページを株主様ラウンジに衣替えし、より当社を身近に感じていただける報告書を目指しました。これからも誌面を通じ株主様とのより良いコミュニケーションを図っていかれたらと思います。今度ともご支援のほど、よろしくお願い致します。

編集スタッフ K

Q1. 株主通信「MCCIR」vol.18の内容で、興味を持たれた記事・コーナーをお選びください。(複数回答可)

- 社長が語る今後の戦略
- P3図説「川崎マイクロエレクトロニクス(株)ってどんな会社？」
- P6図説「中期経営計画」
- 企業情報
- 株主様ラウンジ (株主総会のご報告)
- 株主様ラウンジ (株式の状況・株主メモ)
- 株主様ラウンジ (アンケート結果のご報告)
- 株主様ラウンジ (2012年度 株主優待について)
- 株主様ラウンジ (担当役員が回答する株主様からのご質問)

Q2. 今後、詳しく掲載を行って欲しい情報は何か。(1つだけ回答)

- 経営者メッセージ
- 経営方針
- 中期経営計画
- 業績・財務情報
- 事業内容
- 新技術情報
- 配当
- CSR情報
- その他 ()

Q3. 今後強化して欲しいIR活動・ツールは何か。(1つだけ回答)

- 当社ウェブサイト
- MCCIR (株主通信)
- 個人投資家説明会
- IRフェアへの出席
- 株主総会
- IR雑誌や新聞への掲載・広告出稿
- その他 ()

Q4. 当社ウェブサイトのIR情報はいかがでしたか？

- わかりやすい
- まあまあわかりやすい
- 普通
- あまりわかりやすすくない
- わかりにくい
- まだ見ていない
- インターネット環境がない

Q5. 株主通信「MCCIR」のご感想またはIR活動へのご要望をお聞かせください。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

IR活動の充実に向け
株主様アンケートにご協力ください。

(2013年2月28日
まで受付)